



※シンボルマークは、津波をはじめとする自然災害から子供を守る大人を表現しています。

# 第1回 東北みらい創り サマースクール

—災害の記憶・記録をメディアと教育につなげ、総合化した防災拠点を—

[期間] 8月17日(金)~19日(日)

[主会場] いわて県民情報交流センター「アイーナ」

創造的復興教育に携わる  
すべての人に気づきの場を!



## 東北みらい創りサマースクール実行委員会

岩手大学、岩手県立大学、関西学院大学、岩手日報社、IBC岩手放送、サイエンス映像学会、創造的復興教育協会、富士ゼロックス、JTB東北盛岡支店

〈事務局〉〒020-8551 盛岡市上田4丁目3-5 岩手大学地域防災研究センター内  
TEL:019-621-6491 FAX:019-621-6493



主 催●東北みらい創りサマースクール実行委員会

協 賛●富士ゼロックス、岩手銀行、NTTドコモ、花王、関西学院大学、北日本銀行、サイエンス映像学会、日本サード・パーティ、アイシーエス、三進金属工業、積水ハウス

後 援●岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、遠野市教育委員会、滝沢村教育委員会、岩手大学、岩手県立大学、岩手日報社、IBC岩手放送、朝日新聞社盛岡総局、毎日新聞社盛岡支局、読売新聞東京本社盛岡支局

—— 文科省・全国生涯学習ネットワークフォーラム2012参加事業 ——

# 震災の記憶と教訓を引き継ぐために いま東北から防災教育の発信を！

東日本大震災から約1年半、いま被災地ではようやく復興の鐘音が聞こえ始めています。尊い命を奪い、甚大な被害をもたらした震災は、あまりにも多くのものを奪い去ってしまいました。しかし我々は、二度とこのような経験をしないように、次代を担う子どもたちへ震災の教訓を受け継いでいかなければなりません。そのために被災地である岩手県で、震災を直に感じ、学び合う、東北みらい創りサマースクールを開催します。防災教育について考察するこのスクールは、東北のこれからを創るための復興の一步。災害から子どもたちを守るために、共に教え合い、共に学んでいきましょう。

商店街や住居ががれきの山に変貌した宮古市田老の国道45号付近：  
平成23年3月13日撮影(岩手日報社「平成の三陸大津波」より提供)



最新の技術や情報を持ち寄り、  
岩手を新しい交易の場に



実行委員長  
**伊藤 憲三**  
(岩手県立大学教授)

東日本大震災の体験や教訓を風化させることなく受け継ぐために、教育現場や行政、研究機関などで試行錯誤が続けられています。東北3県を中心とした被災地では子孫にその体験を伝えていかなければならず、被災地以外の地域では南海トラフ地震など新たな災害に備えて大震災の教訓を活かしていかなければなりません。この目的を達成するために、大きな被害にあった岩手県の地で、防災・復興教育に携わる小中高校の教員や行政、大学、NPO、メディア関係者らが全国から集い、その取り組みを発表し、語り合う場を設けることになりました。

大震災から1年後の2012年3月、この趣旨に賛同する団体で実行委員会を構成し、「東北みらい創りサマースクール」を企画・運営してまいりました。第1回目となるサマースクールの大きな柱として、東日本大震災の復興・復興に貢献した人(団体)を顕彰する「東北みらい賞」を創設しました。「防災」「教育」「メディア」にかかわる分野ですぐれた活動をした若手や中堅の人たちを選考対象とし、識者の方々から候補者を推薦していただきました。そして審査会での厳正な選考を経て、2名と1団体を第1回「東北みらい賞」受賞者として表彰することになりました。その功績を広く社会に知らせることで、活動が途切れることなく継続され、よりいっそうのご理解とご支援を多くの方々から賜っていただくことを願っております。スクール初日に表彰式と受賞者によるパネルディスカッション「東北のみらいを創るために」を行います。

二つ目の柱としては、防災・復興教育にかかわる教員らが日頃の実践や研鑽の成果を発表し、共有・議論する各種ワークショップをスクール3日目に開催します。これに先立つスクール2日目には被災地視察をし、やはり現地の教育関係者と交流する機会を設けています。このサマースクールは東北のみらいのために年1回、20年間継続して行うことを目標とします。最後になりましたが、スクールの運営に携わって頂いた方や、ご支援賜った方々に心から感謝申し上げます。

## 被災地に集い、被災地に学ぶ実践的研修機会！

私たちは、311の体験や教訓を風化させることなく、子孫に伝えるとともに、今を生きる人たちにも、いつ遭遇するとも限らない自然災害に備えて、伝えていかなければなりません。大きな被害にあった岩手の地に、内外から教育に携わるリーダーと専門家が集まり、「サマースクール」を開催。「創造的復興教育」についてさまざまな実践や考えを発表し、共有していく場とします。また、各種ワークショップにおいては、ITなど最新の技術を使った防災・復興教育や、新しいタイプのコミュニケーション教育などを実践的に学んでいきます。このサマースクールは毎年夏に継続して開催していきます。



津波で浸水した宮古市中心部：平成 23 年 3 月 11 日撮影(岩手日報社「平成の三陸大津波」より提供)



鉄道のレールが流された釜石市鶴住居町：平成 23 年 3 月 13 日撮影(岩手日報社「平成の三陸大津波」より提供)



市街地が壊滅状態となった陸前高田市：平成 23 年 3 月 27 日撮影(岩手日報社「平成の三陸大津波」より提供)



サマースクールの体験は、  
明日の子供たちを守るための  
多面的な学びの場

「東北みらい賞」を創設しました！  
大震災の復旧・復興に貢献した人(団体)を顕彰します。その功績を称えとともに広く社会に知らせることで、よりいっそうのご理解とご支援を多くの方々から得、活動が途切れることなく継続されることを望んでいます。

### [第1日目]

多彩な専門家から  
最新防災知識を学ぶ。

交流の場として  
ウェルカム  
パーティー  
を開催します

### [第2日目]

被災地に赴き、  
被災地の現実を視察。  
被災校の体験を聴く。

被災地視察は、  
オプションです。  
詳しくは P9 を  
ご覧ください。

ワークショップに  
参加して防災教育を  
体験する。

### [第3日目]

希望するコースが  
選択できるよう複数  
の会場に分かれて  
実施します。

# Program 8.17 (金)

会場: いわて県民情報センター  
「アイーナ」

13:00	受付	アイーナホール / 7F
14:00	開会宣言	伊藤憲三実行委員長 (岩手県立大学教授)
14:10	来賓挨拶	菅野洋樹 (岩手県教育委員会教育長)
14:20	基調講演	上月正博・文部科学省大臣官房審議官 (生涯学習政策局担当)
14:50	「東北みらい賞」表彰式	表彰: 伊藤憲三実行委員長 講評: 高橋孝助審査委員
15:20	パネルディスカッション	受賞者およびコメンテーター 司会: 平田オリザ (審査委員)
16:10	(休憩)	
16:30	報告①	佐藤 卓 (九戸村立長興寺小学校)
16:50	報告②	今野洋二 (大船渡市教育委員会教育長)
17:10	報告③	畑 祥雄 (関西学院大学教授)
17:30	(終了)	
18:00	ウェルカムパーティー	会場 / カフェテラス「スカイメトロ」 (マリオス 20F)

※ 17日～19日の開催期間中でも、空き枠がある場合はお申し込み可能です。詳しくは受付で、あるいは事務局にお尋ねください。

## 第1回 「東北みらい賞」

受賞者



### 野口 高志

株式会社ヨースマー 代表取締役

1970年(昭和45年)石川県金沢市生まれ。1999年の会社設立以来、身近な共同体＝リアルコミュニティが結束し、活性化することを目的に、各種システム開発を行う。それらの開発事例は、「グッドデザイン賞」や総務省の「u-Japan 大賞 ライフ部門賞」を受賞するなど、各方面より評価される。2010年に「エリア放送ローカルサービス送出装置 DDB-Lite (デーデービーライト)」を発表。南相馬市、森ビル、南砺市等において、ホワイトスペースを活用したエリア限定放送事例として導入されている。



### 兼子 佳恵

特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク 代表理事

1971年生まれ。「イツツ・オア・ネバー」という団体を設立し、子ども対象の環境教育活動のサポートを始める。2009年2月に名称を現在の「環境と子どもを考える会」とし、子どもが笑顔になるイベントの開催、街づくりに問題提起する講演会等を企画運営。現在の「NPO法人石巻復興支援ネットワーク」は震災後、つなプロのメンバーと合同で立ち上げた。石巻市震災復興推進委員・石巻市子どもの未来づくり推進委員等を兼任。



### 佐々木 健

大槌町教育委員会生涯学習課課長

1957年(昭和32年)岩手県大槌町生まれ。東洋大学経営学部卒業。82年大槌町役場職員に。震災後の2011年4月から生涯学習課長。図書館長なども兼務。生き物文化誌学会会員、財団法人地方自治体公民連携研究財団客員研究員。共著に『野生生物と地域社会』(昭和堂)『大槌の自然、水、人～未来へのメッセージ～』(東北企画出版)『まちづくり指針 / 持続可能なまちづくりに向けて』(編集)など。



**[基調講演]**  
東北から新しい教育モデルの創出を

上月 正博  
文部科学省大臣官房審議官  
(生涯学習政策局担当)

中央教育審議会では、昨年6月から次期の教育振興基本計画について検討を進めていますが、まず行ったのは、東日本大震災の教育関係の被害、復旧、復興の状況について、地元自治体、大学等多くの教育関係者に丁寧に聴取し、そこから得られる課題と教訓を整理することでした。大震災による甚大な被害と厳しい教育環境に対する早急な支援の必要性が示されるとともに、子ども達が、避難所で率先してボランティア活動を行ったり、マニュアルを越えた行動によって危機を乗り越えたりしたこと、また、国内外からの物心両面での支援・協働、など未来につながる希望が見出されています。そして、このような東北の地から新しい教育モデルが創出されていくことに注目していきたい。東北みらい創りサマースクールが東北、日本の希望を一つ一つ実現していくための場となることが期待されます。



**[報告①]**  
長興寺小における  
ボランティア教育と防災教育

佐藤 卓  
九戸村立長興寺小学校

岩手県内陸部に位置する本校は、岩手の復興を目指し、人のために尽くすボランティア教育と命を守る防災教育を進めています。まず、ボランティア教育としては、本校児童が苗から育てたシクラメンを沿岸部被災地の学校に贈りながら、本校児童自身の心も育てる「まごころフラワー作戦」を行いました。また、防災教育では、校内外の安全・防災環境を見直し、高齢化率34%という地域の特性を生かし、お年寄りの力を借りて児童の命を守る組織「安全ネットワーク」を構築し、見守り活動を開始しました。

東北の復興と未来のためには、それぞれの学校がその地域の特性を生かし、10年後20年後の地域発展や復興主体となる社会人の育成を図る取り組みを地道に継続していくことが重要です。



**[報告②]**  
今だからできる復興教育を

今野 洋二  
大船渡市教育委員会教育長

大船渡市では東日本大震災により死者・行方不明者422名、5513世帯が建物被害を受けるなど大きな被害を受けました。学校は3校が全壊し、2校が浸水。迎えにより帰宅した児童1名の命を失いました。現在、9小中学校の校庭に仮設住宅が建ち、多くの学校が被災者と共存し運営がなされています。

学校教育が抱える教育課題の中で、まず重要なのが児童生徒の心のケアの問題です。運動場の確保などの教育環境の整備も急がなくてはなりませんし、今回の経験を生かした防災体制の改善、防災教育の充実も図っていかねばなりません。

今だからしなければならない教育、今だからできる教育を大切にしたい復興教育を進めていきたいと思っています。



**[報告③]**  
電子教材による防災のマイ教科書

畑 祥雄  
関西学院大学教授

電子書籍と図鑑と映像が一緒になり、防災教育に使うマイ教科書が「防災マルチプル電子図鑑」です。先生は自分で教科書を創り、生徒はノートを加えるのが「マイ教科書」の意味です。3.11の後、日本全国で災害に備える意識が高まりましたが、学び・教えるために使える正確な情報・画像・写真・映像が少ないことが現実です。風化させてはならないという声はありますが、実際には疑似体験できる映像などが体系的にアーカイブされていません。誰もが気軽に過去の災害事例にアクセスでき、海岸・都市・山間部など地域によって災害の在り方が違うので、それらに対応できる電子図書館が必要で、自分の家を中心とした避難の方法が求められています。そのためには、歴史の言い伝えから最先端な情報メディアを組み合わせた自分や家族や学校や地域のための「避難に役立つ道具」が必要です。そのような要望に応える「避難力」に役立つのが「防災マルチプル電子図鑑」です。

被災地視察  
Program 8.18(土) 8:30-18:00

被災地を3コースに分かれて実際に巡り、現地の方のお話を伺いながら震災の被害と現状を把握し、これからの防災教育を考察します。

**[宮古方面]**  
10m 巨大防潮堤でも防げなかった  
田老地区視察

総延長2433m「万里の長城」ともいわれた宮古市田老の防潮堤。しかし、高さ20mの津波はこの長城を乗り越えて防潮堤を破壊し、住宅地を飲み込みました。視察では当時の様子や被害状況等を把握するとともに、防潮堤の果たした役割を考え、安全なまちづくりについて考察します。



水門だけが残る宮古市田老の防潮堤：平成23年4月2日撮影（岩手日報社「平成の三陸大津波」より提供）

**[釜石方面]**  
釜石の奇跡の舞台  
「鶴住居地区」視察

震災の津波による死者・行方不明者が1,000人を超す釜石市で、学校にいなかった5人を除き、小・中学生2,921人が無事に逃れた「釜石の奇跡」。視察ではその舞台となった鶴住居地区の現状を見学し、子どもたちの命を救ったといわれる釜石市独自の防災教育の内容を伺います。



児童・生徒が自主的に避難し、「釜石の奇跡」の舞台となった鶴住居地区。写真は被災した鶴住居小学校。

**[陸前高田方面]**  
完全に焼失した市街地と  
奇跡の一本松の視察

県内で最多の死者・行方不明者を出し、市街地のほとんどが壊滅状態に追いやられた陸前高田市。景勝地・高田松原の7万本の松もそのほとんどが流失しましたが、奇跡的に1本の松だけが倒れずに残りました。この復興のシンボル・一本松と、市街地の被害の様子、現在の状況などを伺います。



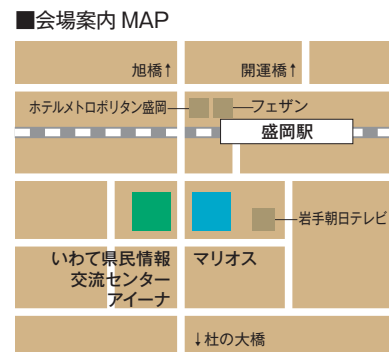
1本だけ奇跡的に残り、市民に希望と勇気を与えた高田松原の一本松。かつての景勝地の面影はどこにもない。

# Program 8.19 (日)

会場: 遠野ふるさと村・  
アイーナ・マリオス

## 19日 ワークショップ・プログラム

会場	実施時間	担当	講師	テーマ	内容
遠野ふるさと村 (遠野市)	9:00 ~ 14:00	富士ゼロックス	河野克典 (コミュニケーション技術研究所)	フューチャーセッション in 遠野「遠野の未来を語る会」	「共に学ぶ、創る」。最新の対話型コミュニケーション手法を学びます。
アイーナ 810 会議室	10:00 ~ 12:30	岩手県立大学	伊藤憲三、村山優子 (ソフトウェア情報学部 教授)	震災 IT 支援	災害時の情報デザインを考察します。
アイーナ 811 会議室	10:00 ~ 12:30	岩手大学	堺茂樹 (工学部教授、地域防災研究センター長)、今井潤 (地域防災研究センター 准教授 (兼))、柳川竜一 (地域防災研究センター 特任助教)	先生のアイデアで作る教材	DVD を使用して模擬授業を体験します。
アイーナ 811 会議室	13:30 ~ 16:00	青山学院大学	苅宿俊文 (社会情報学部教授)	みらい創りのためのコミュニケーション	みらいを創るための協働と多元を体験しつつ考えてみましょう。
マリオス 185-186 連結会議室	13:00 ~ 16:00	岩手高等教育コンソーシアム	後藤尚人 (人文社会科 学部教授)	復興を担う人材像とは	被災地の高校生と大学生が共に学びます。
マリオス 183-184 連結会議室	10:00 ~ 16:00	創造的復興教育協会 関西学院大学 サイエンス映像学会	岩手県教育委員会指導主事 森本晋也、西武学園文理中学・高等学校教諭 佐野和之・金井達亮、田園調布双葉中学高等学校教諭 小林潤一郎	岩手県の防災教育と防災マルチプル電子図鑑 模擬授業	タブレット型 PC を用いた未来型授業を体験します。
			立命館慶祥中学校・高等学校教諭 加藤敦史	地図は世界を変える	日本人は国土をどのように捉えてきたのか
マリオス 183-186 連結会議室	16:15 ~ 16:45	総括討議	伊藤憲三・実行委員長、堺茂樹・実行副委員長、畑祥雄・実行副委員長		
	16:45 ~ 17:00	閉会宣言	堺茂樹・実行副委員長		



### 【富士ゼロックス】 遠野の未来を語る会

これまでの「教える、習う」から「ともに学ぶ、創る」コミュニケーションへ。最新の対話型コミュニケーション手法を体験しませんか?多様で新しいつながりを広げる人たちが、対話により未来を創る「フューチャー・セッション」へのお誘いです。今回は、柳田國男の『遠野物語』の舞台であり、宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』のモチーフにもなった美しいまち遠野で、地元の方々との対話の場を共有します。地元の方々や参加者の皆様との対話により、新たな遠野の魅力や可能性を探究します。対話型のコミュニケーション手法をご体験いただくとともに、ぜひ遠野の未来の出現にもご協力ください。

### 河野 克典 コミュニケーション技術研究所



村山 優子  
岩手県立大学教授

### 【岩手県立大学】 岩手震災 IT 支援ワークショップ

本ワークショップでは、震災直後から数か月にわたる復旧時のコンピュータ機器やインターネット接続等の IT 支援の報告を中心に、災害時に必要な情報デザインやリテラシの問題、今後の復旧に向けたサービス等を情報技術や情報サービスの観点から報告いたします。具体的な支援内容を考察し、反省点や今後の展開展望を、質疑応答により、皆で考える場としたいと考えています。

- 10:00 ~ 10:05 開会の辞: 伊藤憲三 (岩手県立大学)
- 10:05 ~ 10:35 岩手における復旧時の IT 支援と課題: 村山優子 (岩手県立大学)
- 10:35 ~ 11:20 情報デザインからの支援活動: アラカワケンスケ (Earth Literacy Program)
- 11:20 ~ 12:05 映像から読み取る情報リテラシ: 高橋光輝 (デジタルハリウッド大学)
- 12:05 ~ 12:25 復興ウォッチャーの運用: 齊藤義仰 (岩手県立大学)
- 12:25 ~ 12:30 閉会の辞: 伊藤憲三 (岩手県立大学)



伊藤憲三 岩手県立大学教授  
アラカワケンスケ Earth Literacy Program  
高橋光輝 デジタルハリウッド大学准教授  
齊藤義仰 岩手県立大学准教授



堺 茂樹  
岩手大学地域防災研究センター長 教授

### 【岩手大学】 オリジナル教材で津波防災教育を ~先生のアイディアで作る教材~

岩手県と岩手大学が共同で作成した津波防災教材を用いた防災教育を紹介します。この教材は冊子体ではなく、津波防災教育用の素材を数多く収録した DVD であり、いわばコンテンツ集です。小学校低学年から中学生までの広い年齢層を対象としていますので、アニメーションやビデオなど、動画が多く含まれています。この教材の特徴は、地域の地理的条件、児童・生徒の学年や教科に応じたコンテンツを組み合わせ、先生自作のシナリオに沿った教材を作ることができる点です。しかし、自分なりのシナリオづくりには、まず先生がしっかり勉強しなければなりません。

WS では、DVD に収録されている内容を説明します。次に、参加者一人ひとりがそれぞれ教えようとする対象を決め、教材を作ります。その後、出来上がった教材を使って短い模擬授業をして頂きます。最後に、今後の津波防災教育のあり方について、参加者全員でディスカッションしたいと考えています。



柳川竜一  
岩手大学地域防災研究センター 特任助教



過去に実施された教師向け津波防災教育の様子の様子



**[青山学院大学]**  
みらい創りのためのコミュニケーション

これからの私たちは、多面的な社会で、いろいろな人たちとつながっていくことが求められています。その具体ではすごいことではなく、まず周りの人たちから始めることです。現在、情報社会が進展し、デジタルの世界のコミュニケーションが増えている中で、私たちはリアルなコミュニケーションのおもしろさを再確認出来ることをコンセプトにハッピー型のツールを開発しました。ぜひ、みなさんとそのツールを使って、人と出会うワクワク感、ドキドキ感を味わっていききたいと思います。

**菊宿 俊文**  
青山学院大学教授



**[岩手県高等教育コンソーシアム]**  
復興を担う人材とは

いわて高等教育コンソーシアムでは、震災復興にかかる取組として、文部科学省の補助金を受けて平成 23 年度より「地域を担う中核的人材育成事業」(11 事業)を実施しています。その事業の一つに「被災地の学校で高校生・大学生がともに学ぶワークショップの開発」があり、本年度は東北みらい創りサマースクールに合わせ、被災地の高校生とコンソーシアム連携大学の学生が、復興を担う人材をテーマに盛岡でワークショップを行います。久慈、宮古、釜石、大船渡からの高校生と内陸部の大学生が、被災地の現状について認識を共有し、復興に向けて求められる人材とその能力や資質等を共に考えることで、次代を担う人材の育成へと繋げたいと思います。

**後藤 尚人**  
岩手大学教授



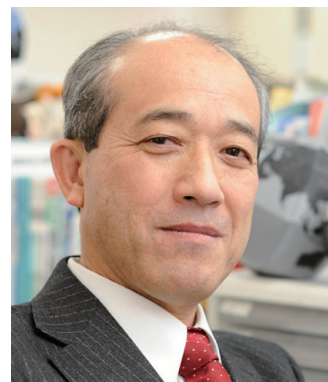
**[創造的復興教育協会・関西学院大学・サイエンス映像学会]**

岩手県教育委員会事務局学校教育室義務教育担当指導主事 森本晋也／西武学園文理中学・高等学校 佐野和之先生、金井達亮先生／田園調布雙葉中学高等学校 小林潤一郎先生／立命館慶祥中学校・高等学校 加藤敦史先生

被災地での復興教育と  
電子学習教材を使つての防災教育の模擬授業

このワークショップは、四部構成で実施します。第一に、岩手県教育委員会で防災教育を担当する森本晋也指導主事から、「釜石の奇跡」で知られる岩手県の防災教育の考え方や事例を学びます。第二に、西武学園文理(埼玉)、田園調布雙葉(東京)の先生方による電子学習教材「防災マルチプル電子図鑑」を使った模擬授業により、ICTを活用した新しい防災教育を体験します。第三に、立命館慶祥中学校・高等学校の加藤先生による地理で学ぶ固定観念にとらわれない思考法の授業を体験します。そして、第四に、これら発表と模擬授業をふまえて、参加先生方と一緒にこれから防災教育の指導案をグループで話し合い、発表し合います。ふるってご参加ください。

金井達亮 西武学園文理中学・高等学校



加藤敦史 立命館慶祥中学校・高等学校教諭



MOMO

Handwriting practice area with horizontal dotted lines.



旧岩手銀行本店(国の重要文化財)

心をつないで、  
ふるさとを支えたい。



おかげさまで80周年

岩手銀行は、昭和7年の創業以来、おかげさまで創立80周年を迎えました。これもひとえに皆さまからのご愛顧の賜物と、役職員一同、心より感謝申し上げます。当行はこれからも、皆さまから信頼され選ばれる銀行を目指すとともに、活力に満ち、豊かさに溢れる岩手・東北を1日でも早く取り戻すために全力を尽くしてまいります。今後とも一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



125  
KWANSEI GAKUIN  
1889-2014

世界市民を育む、  
学びがある。

<http://www.kwansei.ac.jp/>

- 神学部 ●文学部 ●社会学部 ●法学部 ●経済学部
- 商学部 ●理工学部 ●総合政策学部 ●人間福祉学部
- 教育学部 ●国際学部

 関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



自然と調和する ころ豊かな毎日をめざして

手のひらに、明日をのせて。

**docomo**

ELUGA Live (P-08D) 8月発売予定

MEDIAS TAB X (N-06D)

ARROWS Tab LTE X (F-01D)\*1

**タブレット  
好評発売中!**

※「ELUGA」はパナソニック株式会社の商標です。※「MEDIAS」は、NECカシオモバイルコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。  
iモード非対応 ※バッテリーの取り外しはできません(バッテリーの交換は有料となります)。\*1音声通話およびデジタル通話(テレビ電話・64Kデータ通信)はご利用できません。

【お問い合わせ】ドコモの携帯電話からは局番なしの151(無料) 一般電話などからは ☎0120-800-000  
番号をよくお確かめのうえ、おかけください尚、一部のIP電話からは接続できない場合があります。 ●本広告の内容は2012年7月27日現在の情報です。



あなたが、うごきだす。

まちが、めざめる。

そして、  
きもちがかよいあう。

あなたに笑顔を。  
まちを元気に。  
北日本銀行とお客さま、  
心はひとつです。

心はひとつ。  
**北日本銀行**

illustration: ikuko yamamoto

**FUJI XEROX**



より効率的な  
情報共有・活用を実現

ドキュメントハンドリング・ソフトウェア  
**DocuWorks 7.3**  
<http://docuworks.fujixerox.co.jp>

**富士ゼロックス北日本株式会社**  
980-0022宮城県仙台市青葉区五橋1-1-23 カメイ五橋ビル 3F

**富士ゼロックス株式会社**  
107-0052 東京都港区赤坂九丁目7番3号

お問い合わせ 0120-274-100 <受付時間>9:00~12:00, 13:00~17:00(土、日、祝日除く) XEROX、およびそのマークは、米国ゼロックス社の商標です。

**サイエンス映像学会**

サイエンス映像学会は、映像文化を通して教育と科学を育みます  
<http://svsnet.jp>

サイエンス映像学会 主催「科学ジャーナリスト塾」

サイエンス・リテラシー講座「3.11の教訓をアーカイブする」

9/3	「兵庫県神戸 先端医療都市構想から防災ヘリでの情報活用」	杉本真樹
9/10	「水俣・スリーマイル・原発の共通点」	アイリーン・美緒子・スミス
9/24	「映画『いのち』の取材現場から」	林勝彦
10/15	「阪神淡路大震災からのボランティア力」	室崎益輝

※9月3日,24日は防災マルチプル電子図鑑制作委員会特別研究会枠として開催します

関西学院大学  
東京キャンパスにて 詳しくは **科学ジャーナリスト塾** **検索**  
開催中

クラウド時代のエンジニアに必要とされる IT スキルをスコアにより明確に可視化!

世界共通のITスキルアセスメント

Global Assessment of  
**GAIT**  
Information Technology

<http://www.gait.org>

グローバル競争に勝ち残るには  
世界共通の基準による人材の棚卸しが必要です

導入のメリット

- メリット1 担当業務に対するスキルミスマッチをクリアできる
- メリット2 技術最先端で活躍できるエンジニアの育成ができる
- メリット3 学風組織風土を醸成する、社員の自己啓発を促すことができる

**JTP** 日本サード・パーティー株式会社  
〒140-0001  
東京都品川区北品川 4-7-35 御殿山トラストタワー 14 階  
TEL.03-6408-2488 (代表) FAX.03-6859-4797  
<http://www.jtp.co.jp>